

支援事業計画

● 事業目標と計画

1、個別支援の充実

通所が不安定なメンバーの通所日数増や安定化に力を入れる。相談体制や個別支援の充実を図る為、相談を受けれる人員体制の確保、計画的な研修受講、きめ細やかな知識と情報の共有を行う。

2、報酬改定に柔軟に対応しつつ、改善要求をする

報酬改定により、B型の報酬費は「月の平均工賃」で差がついた。安定的に運営していく為、できる範囲新たな制度に対応しつつ、精神障がい者に配慮がない今回の改定に対し、市や国に改善を訴えていく。

3、メンバーひとりひとりが「必要とされている」、「役立っている」と感じられる仕事や役割の創出

現状には物足りなさを感じるメンバーも居る。ひとりひとりが充実感や達成感を得られるよう、より主体性が発揮でき、責任ある仕事や役割を段階的に作っていく。

4、「シフォンケーキ販売店」となる従たる事業所設置への検討と準備

現在の事業所は15名程度の通所で手狭になる。今後より多くのメンバーの通所を可能にし、事業所内でステップアップできる仕組みを作る為「シフォンケーキ販売店」となる従たる事業所の確保を検討していく。

5、関係機関や地域住民、ボランティア、メンバー家族との交流をより深める

これまでも関係機関や地域住民、ボランティア、家族の協力により、施設運営が充実してきた。今後も感謝の気持ちを忘れず、さらなる交流や協力関係を築く為、より一層地域に開かれた事業所運営を行う。

つばめ工房 原作業所 通所者数 平均/目標

													(人/日)	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
29年度 通所平均	15.4	14.6	14.2	16.0	15.0	16.4	15.7	15.2	14.0	13.5	14.0	14.5	14.9	178.5
30年度 通所平均目標	15.0	15.0	15.1	15.1	15.2	15.2	15.3	15.3	15.4	15.4	15.5	15.5	15.3	183.0

授産への取り組み

● 授産事業内容

自主製品…シフォンケーキ、ジャム、クッキー、押花作品の製造と販売

下請作業…グリーンコープチラシ(帳合)、ペロル作業、公民館清掃、市政便り配布、ぱど配布、行楽用品作成

● 活動目標

・工賃アップをしていけるよう、作業内容、収入構造の改革を行う。

・売上げ増を見込める自主製品(特にシフォンケーキとジャム)製作の割合を増やし、下請け作業をスリム化。

● 活動報告

・8月「ときめきセレクション2017」にシフォンケーキで応募し入賞。その後関連の販売・イベントに出店。

・毎月レクリエーションを開催し、行楽・外食・買い物・カラオケ・季節の行事など楽しみ、交流を深めた。

・冷凍庫故障により買い替え。送迎車不足により中古普通車購入。安全対策工事、清掃、害虫駆除を行う。

・箱折り作業が2月をもって終了。新規委託業務(行楽用品作成、紅茶サンプル作成)を請け負う。

● 成果のあった点

・シフォンケーキが「ときめきセレクション2017」で入賞し、宣伝や販売の機会も増え、売上増につながった。

・冷凍庫を大型化したことで、在庫数を増やせるようになり、余裕を持って作業できるようになった。

・ラベルライターの導入、シフォンケーキのリーフレット作成により、仕事の創出と効率化ができた。

・厨房や販売に従事するメンバーが増えた。

● 今後の課題となった点

・小型オープン1台の為、シフォンケーキが1日に10ホールしか焼けない。設備拡大を検討中。

・箱折りの作業が無くなった為、器用でないメンバーが安定的にできる別の作業の確保。

・繁忙期(9月～1月)はどうしてもスタッフの残業が増える為、メンバーと共にできる作業を増やす。



その他

● 実習の受入

H29年度は実習生3名、一日体験実習11名を受入れた。H30年度も引き続き実習生を受入れていきたい。

● 職員研修、スタッフ会議

H29年度は常勤職員は比較的希望する研修を受講できた。H30年度は職員全体のレベルアップを図る為、非常勤職員も含め全員が研修を受講できる体制を整えたい。スタッフ会議は毎月第1、第3水曜日に行う。

H30年度 職員体制

常勤	非常勤	常勤換算
3	3	5.0

施設名 就労継続支援B 喫茶・レストラン オアシス
支援事業計画

● 事業目標と計画

- ・利用者や家族との信頼関係の構築:通所ペースの維持・向上
- ・支援体制の充実:研修などによる専門的知識の向上や経験の蓄積
- ・就労支援体制の充実:就労アセスメントによる目的意識の確認、職員の専門的知識の向上
- ・各機関との連携:早期の相談、会議の開催、本人の支援方針の情報共有
- ・地域連携:舞鶴地区での行事参加、あいれふビル内でのイベント協賛

喫茶・レストラン オアシス 通所者数 平均/目標													(人/日)	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
29年度 通所平均	9.3	10.2	10.2	10.5	11.5	10.5	9.9	10.9	11.3	10.4	11.0	11.5	10.6	127.2
30年度 通所平均目標	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	132.0

授産事業計画

● 事業目標と計画

【喫茶】

- ・接客対応、サービスの向上:接客マニュアルの見直しおよび訓練
- ・コストのバランス強化:原価コストの確認、経費の見直し
- ・メニュー開発:定番メニューの見直し、限定メニューや自主製品の開発
- ・地域への認知度アップ:チラシ配布、販路開拓
- ・利用者工賃の向上:『自分たちのお店』という認識の向上、自主的な行動



【軽作業】

- ・訓練機会の提供:作業場内でのコミュニケーションの充実、生活リズムの安定
- ・定期的な入出荷による収入の維持・向上:下請け業者との信頼関係の構築、期日厳守の的確な作業
- ・新たな作業の開拓:一定の作業量、収入源の確保

【受付～珈琲Slowth～】

- ・業務の定着と認知度の向上:職員、利用者の人員確保とスキルアップ
- ・新たな使用方法の模索:珈琲以外の商品の提供や訓練提供としての可能性を探る

その他

● 実習の受入予定

- ・筑紫女学園大学、西南学院大学、麻生医療福祉専門学校 等

● 職員研修、スタッフ会議、その他行事予定

- ・スタッフ会議
- ・就労支援連絡会
- ・発達障害研修
- ・福岡県精神保健福祉協議会(毎月第2土曜日)
- ・福岡県精神保健福祉社会連合会
- ・舞鶴地区夏祭り(文化祭、運動会)
- ・あいれふ(保護会館)防災・消防訓練
- ・市民糖尿病教室(医師会コラボ)
- ・ハートメディア
- ・暑気払い
- ・クリスマス会
- ・初詣
- ・精神保健福祉従事者研修
- ・食品衛生責任者研修
- ・サービス管理責任者研修
- ・ちゅうちゅうネット研修会
- ・感染予防研修
- ・就労移行支援事業所研修会
- ・精神保健福祉センター運営協議会
- ・筑紫女学園大学実習懇談会
- ・あいれふ定例会(毎月第2木曜)
- ・合同スポーツ大会
- ・みんなの集い
- ・健康フェア(協賛)

H30年度 職員体制		
常勤	非常勤	常勤換算
4.0	2.0	5.8

支援事業計画

- 事業目標
 1. 利用者と職員が本来の自分を発揮し、いきいきと過ごせる自由な雰囲気のある場を作る。
 2. 利用者が自分の未来に夢を持てるように、自分の希望をかなえられる場所でありたい。そのために利用者との距離が近い、それぞれの事情に沿った個別の支援を強化する。
 3. 作業工賃のアップを目指す。
 4. スタッフの支援技術向上のための研鑽、研修。自主的に動ける臨機応変な対応のできる職員の育成。
 5. 利用者家族、他機関、計画相談事業所との連携。
- 事業計画
 1. 請負作業中心のこれまでの作業では利用者の工賃はどうしても最低ラインをこえることができず、限界がある。そのため現在手芸中心で行っている自主製品の制作、販売の拡大を図り、食品製造への道も模索していきたい。
 2. 新規利用者の定着を確実にするために、新規利用者に対しては特に気配りをして、個別の対応を強化していく。
 3. 定員上限までの利用者の通所をめざし、運営の安定を図る。そのためにも職員全員が全体、個人に対して適切で丁寧な心のこもった支援ができるように支援技術の向上に努める。

ピアつばめ 通所者数 平均/目標

通所者人数													(人/日)	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
29年度 通所平均	13.8	13.0	14.6	15.1	14.8	15.6	14.1	14.4	14.0	14.0	13.0	13.5	14.2	170.3
30年度 通所平均目標	15.0	15.0	15.0	16.0	15.0	15.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	17.6	211.0

※ 10月より生活訓練再開(予定)

授産への取り組み

- 活動目標
 1. 自主製品制作と請負作業を組み合わせて、作業を行っていく。
 2. 自主製品販売の拡大をめざして、現在の手芸製品に加えて、食品製造ができる設備を備え、食品の製造販売を将来的に考えていきたい。
 3. 今後、工賃が報償費にも反映されていくことになるので、現在最低レベルの工賃を新しいアイデアでなんとかアップさせていきたい。
 4. 現在契約中のJAの貸農園でさらに栽培技術を磨いて、売れる(形の整った)農産物を作れるように努力していく。同時に畑作業が利用者のよい気分転換になればとの思いがある。
 5. 作業だけでなく、利用者の楽しみとなる行事も充実させたい。今年度は利用者の希望により現在各自積立を行っている一泊旅行を実現させたい。

その他

- 実習の受入
西南学院大学人間科学部社会福祉学科、国際医療福祉大学福岡看護学部
- 職員研修、スタッフ会議
随時実施予定
必要な研修を積極的に行っていく。
- 行事
カラオケ、クリスマス忘年会
紅葉狩り、ボーリング、一泊旅行
調理実習等

H30年度 職員体制		
常勤	非常勤	常勤換算
3.0	2.0	4.2



H30 初詣 紅葉八幡にて

自立（生活）訓練事業計画

● 事業目標

1. ピアつばめ生活訓練が休所してからほぼ1年半が経過した。
なかなか人員配置の目途が付かず、再開をめざし現在準備中である。
2. 以前の生活訓練のやり方も取り入れながら、新たな取り組みも目指す。
日常生活の自立を目指して、家事や地域生活についての訓練も取り入れ、ひとりで地域で生活していける力を身に着ける。
3. 担当職員の支援技術を高める。生活訓練はより密接な利用者との関係が必要であり、個々のニーズにあわせたきめ細やかな支援が求められる。全体、個人にわたって目配せのできる職員を育成する。

● 事業計画

1. 通所支援では一日平均5名来所を目指す。利用者にとって各自の世界をひろげるプログラムを工夫する。生活技術の具体的な訓練や社会生活におけるコミュニケーションスキルの向上をめざし、同時に生活の楽しみ方も伝えていきたい。
2. 訪問支援も行い、生活上の悩みや困りごとの相談を行う。必要に応じて、外出支援、自宅での具体的な家事のしかたなどの技術指導も行っていく。訪問支援では通所につなげる関わりを重視する。
3. 自主的に考えて行動できる職員の育成。支援力や企画力を高めるために、OJT、研修、他施設見学などで研鑽する。
4. 他機関、家族との連携。

プログラムへの取り組み

● 活動目標

1. 利用者の生きる力の回復と自尊感情や自己肯定感を高める関わりを目指す。
2. 利用者の生活の自立のために、洗濯や掃除、料理など実際の日常生活で不可欠な家事技術の訓練を行う。銀行や買い物、病院等の外出が自分でできるように地域で一人で生活していける技術を身につける。
3. 担当職員は、支援者の価値観ではなく、利用者の主体的な思いを第一に考え、本人が自分で考えて行動していけるように支援する。
4. 行動範囲の狭い利用者のために、趣味の充実のための趣味講座、健康回復のためのヨガ教室などを実施する。生活の目標や楽しみ、生きがいを見つけることができることを目指す。

その他

● 実習の受入

西南学院大学人間科学部社会福祉学科、国際医療福祉大学福岡看護学部

● 職員研修、スタッフ会議

随時実施予定

必要な研修を積極的に行っていく。

H30年度 職員体制		
常勤	非常勤	常勤換算
1.0	2.0	2.2



地域活動支援センター事業計画

● 事業目標

- ・地域で暮らす障がい者が、安心して過ごせる居場所作り、仲間と出会い交流をしたり、地域社会とつながる機会を持つことにより、地域で豊かな生活を送れるよう支援を行う。
- ・「人と人がつながり支え合う」ことを大切にし、利用者の孤独感を軽減し、楽しみや役割を見出せるよう支援を行う。
- ・職員の成長のため、研修会などに積極的参加し、学んでもらう。

● 事業計画

- ・安心して過ごせる場の提供、様々な相談対応、食事提供、サークル活動、電話相談などを行う。
- ・利用者を常に温かく迎える。ひとりひとりの生活スタイルに合わせ、個別の相談にしっかり対応する。
- ・つなぐ支援を意識し利用者が様々な場面で役割を持ち、自尊心を回復できるよう心掛け支援する。
- ・職員が最低1回は外部の研修に参加をする。

平成29年度平均来場者数	平成30年度平均来場者数見込
33.6名	33名
平成29年度登録更新者数実績	平成30年度登録更新者数目標
121名	150名

I 型事業への取り組み

● 目標・課題

1. 個別支援の充実（全ての利用者が「ここに来て良かった」と思えるような人と場の提供）
2. 交流事業の充実（活動の充実、家族学習会による家族支援）
3. 他機関との連携強化（連携を強化し、適切な支援を提供できるようにする。）
4. 地域交流の推進（原公民館、校区人尊協、地域住民との連携）
5. ハード面の改善（快適な空間を提供できるよう、施設の設備を整理し、美化に努める）

● 具体的な内容

1. より良い支援が提供できるよう、研修やOJTを充実させ、人材育成の強化を図る。
2. 付近の事業所と協力して、合同のイベントを増やし、利用者に様々な人との交流を提供する。
3. 他機関と連携を強化し、支援が困難な利用者への適切な対応、支援が行えるようにする。
4. 地域住民との連携強化は今後も課題。具体的に何か方法がないか考察し取り組む。
5. ハード面で利用者が安心できない箇所がある。それらを予算内で修繕できるよう取り組む。

その他

● 実習の受入

平成29年度は、大学と専門学校から計名の実習生を受入れた。西南学院大学、久留米大学、フチガミ医療福祉専門学校、九州医療専門学校、福岡医療福祉専門学校など。

● 職員研修、スタッフ会議

職員の資質向上、援助技術の充実をはかる為、それぞれの経験年数や立場、能力に応じた専門研修、キャリアパス研修等の受講を積極的にすすめる。また職場内研修として、個人情報取り扱い、虐待防止に関する研修を行う。スタッフ会議は毎週月曜日に行う。

● 居住サポート事業

賃貸契約による一般住宅（公営住宅及び民間の賃貸住宅）への入居を希望しているが、保証人がいない等の理由により入居が困難な障がいのある方等に対して、入居に必要な調整等・家主等への相談・助言も含める支援を行い、障がいのある方等の地域生活を支援を行う。

● 在宅処遇支援事業

生活保護を受給し、居宅生活を送る精神障がい者に対し、区保護課及び関係機関と連携しながら、さまざまな課題への相談・支援を通じて、当該世帯の社会的自立を目指す。

H30年度 職員体制(ぷらっと+在宅処遇支援事業)		
常勤	非常勤(ボランティア)	常勤換算
4.0	3.0(1.0)	5.4

※居住サポート事業を含む

● 事業目標と計画

1.区ごとのネットワークの構築

- ・情報収集シートの更新(年度1回)
- ・西サポネットの運営:発展的分岐

2.区内の相談支援事業所のネットワークの構築

- ・相談支援事業所『西区相談あつまろう会』の実施
- ・地域包括支援センターとの連携
- ・ケアマネ、相談支援専門員の連携の構築

3.区内の相談支援事業所に対する専門的な指導・助言・人材育成

- ・個別事業所に対する助言、同行
- ・研修会の実施

4.地域福祉の基盤づくり

- ・民児協への参加
- ・区行政との連携強化
- ・地域包括支援センターとの連携
- ・社会福祉協議会CSWとの連携協議

5.緊急時の対応についての取組

- ・緊急時受け入れ・対応拠点との連携
- ・地域資源の緊急時対応のネットワーク検討



個別支援事業計画

● 事業目標と計画

- ・計画作成ケースの移管
- ・地域移行・地域定着の推進、拠点区の病院との連携
- ・人員の確保を行い次第:次年度の事業分離を前提とした相談支援専門員の育成
- ・計画作成、地域移行・地域定着、及び自立生活援助事業の独立採算の検討

その他

● 職員研修

- ・区障がい者基幹相談支援センター相談支援専門員研修年度計画に基づき参加
- ↓
- ・研修に基づき各区の相談支援事業所への伝達研修が予定されている。

● H30年度課題

- ・基幹センター人員の補充:現行4名→5名(プラス1名希望)
- ・計画等担当人員の確保(1名以上)

H30年度 職員体制		
常勤	非常勤	常勤換算
5.0	0.0	5.0